

1.💡研究概要・背景・全体像

研究概要

この研究は「日本人=集団主義、アメリカ=個人主義」という一般的なイメージを絵本の視点から問い直すことを目的としたものだ。日米それぞれの絵本についてテキスト、イラストが集団主義的か個人主義的かを考え、国ごとの特徴を掴むことを試みた。

研究背景

- ◆ 日本人は集団主義的だというイメージがある
- ◆ しかし上記を反証する研究の存在<sup>1</sup>
- ◆ その中で絵本の中での傾向をとらえる

全体像

- ◆ テキスト研究2つ、イラスト研究1つ
- ◆ 研究対象・日米それぞれの主な絵本賞受賞作



2.🖋️テキスト研究①

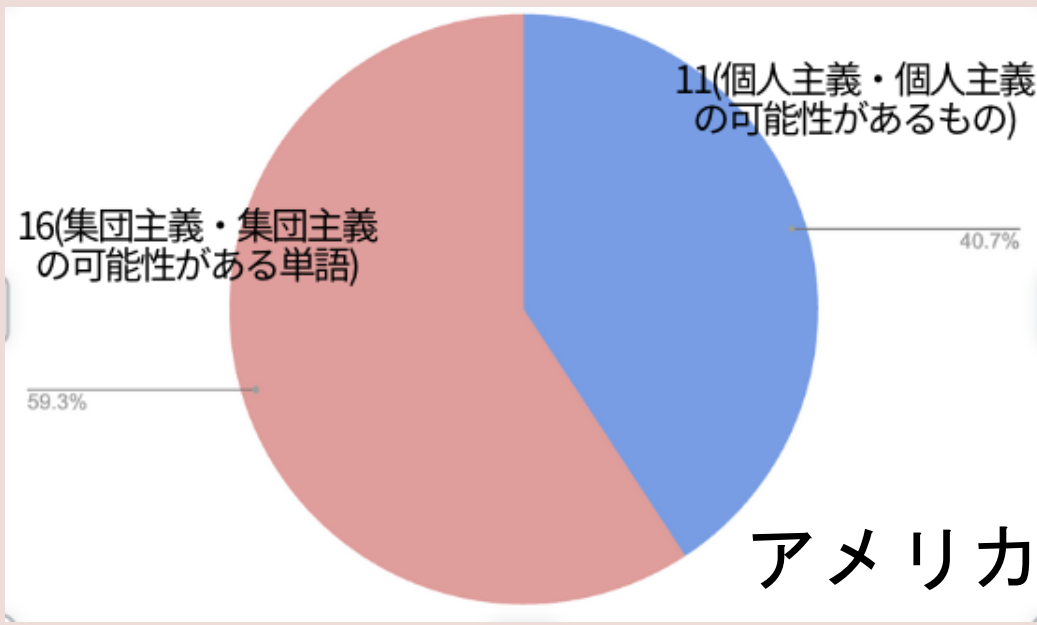
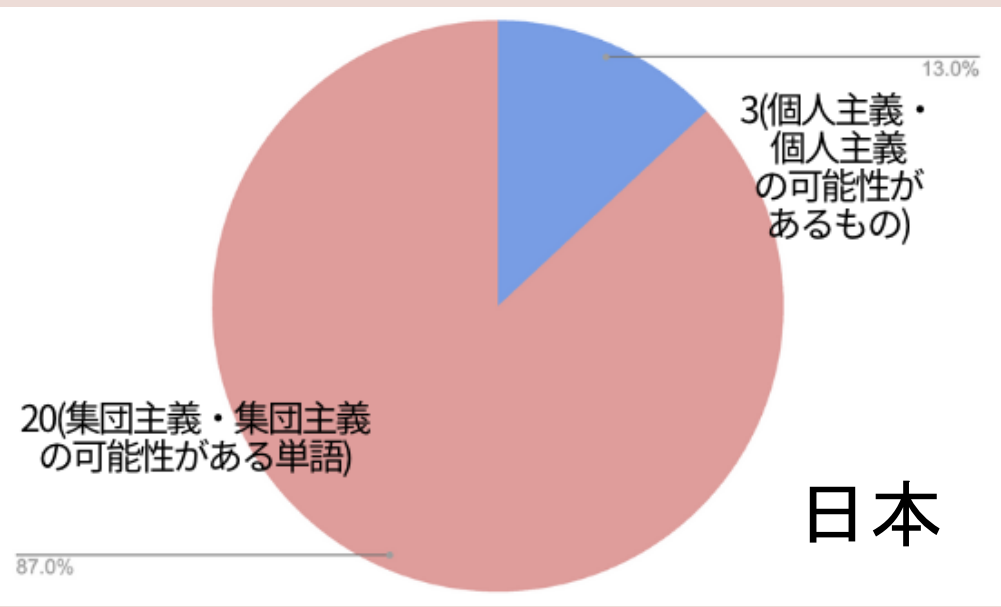
概要

対象：日米の主な絵本賞のうちテキストを対象としているものそれぞれ2賞（日：20作，米：17作）<sup>2</sup>

手法：

1. 各本頻出語上位10語を抽出（Google Colab使用）
2. 各単語をOysermanの集団主義（COL）・個人主義（IND）の指標<sup>3</sup>を使いコーディング（微妙なものは「可能性がある」と記述）
3. 各国の単語の合計を集計、割合を比較

結果（全体でどちらの単語が多いか）



- ・日本の方が集団主義的単語が多い
- ・しかし当てはまる単語が少ない

3.🖋️テキスト研究②

概要

対象：テキスト研究①と同様

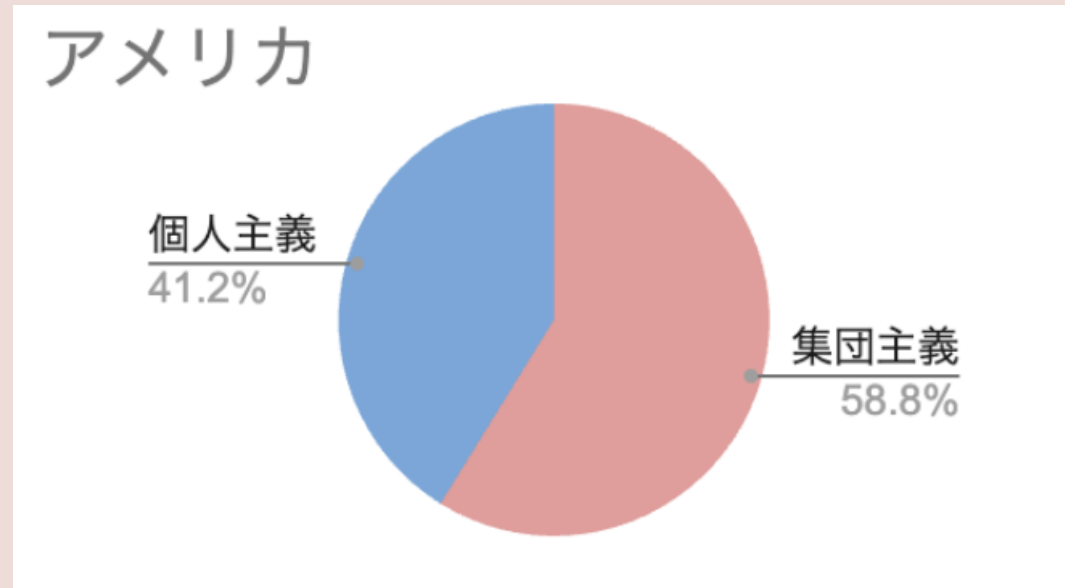
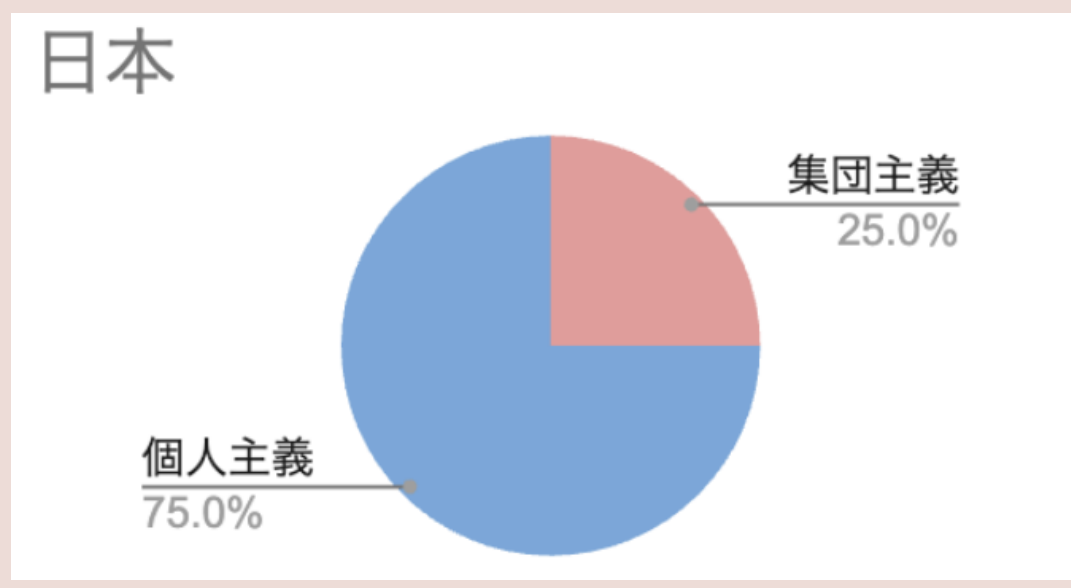
手法：

1. 絵本用IC語彙リストを作成（Imada<sup>4</sup>の指標参照、AI補助使用）
2. 各作品での上記リスト語彙出現回数をカウント
3. ICどちらが多いかで各作品をラベリング
4. 各国の特徴分析

※IC=個人主義・J 集団主義

3.🖋️テキスト研究②

結果（全体でどちらの作品が多いか）



- ・アメリカの方が集団主義＞個人主義

4.🎨絵研究

概要

対象：日米の主な賞受賞作品（日：29作、米：18作）<sup>5</sup>

手法：

1. 以下の指標に基づきaとbは見開きページ、cは作品ごとコーディング、aとbに関してはまず作品ごとの平均をとり、さらにその国ごとの平均を、cについては国ごとの平均を算出
- a. 登場人物（1人=1, 2人=2, 3人以上=3）
- b. 人物の大きさ（全身=1, 胸より上のみ= 3, 中間= 2）
- c. 作品全体で登場人物の視線を合わせている描写のあるページ数

結果

- ・登場人物・大きさ・視線：いずれも日米で有意差なし（ $p > 0.05$ ）
- ・視線はサンプル数拡大で有意さありの可能性

国名	平均値
アメリカ	1.979282197
日本	2.092945212

（登場人物数）

国名	平均値
アメリカ	1.326589274
日本	1.186903234

（人物大きさ）

国名	平均値
アメリカ	1.722222222
日本	2.689655172

（視線）

5.☑️まとめ

- ・テキスト研究①：日本が集団主義的
- ・テキスト研究②：アメリカが集団主義的
- ・絵研究：有意差なし
- ・サンプル数の欠如による結果の違いの可能性
- ・日米で顕著な差はない可能性も→ いずれにせよ再検証が必要



研究の限界

- ・サンプル数の欠如
- ・出版年の幅が広い→年代による差の可能性
- ・テキスト研究②でAIを使ったことによる再現性の担保
- ・日本語翻訳版での対応

今後のプラン

- ・今回の限界部分の克服（今年中）
- ・文脈も含めた分析（来年6月）
- ・アルゴリズムやAIをさらに利用した分析で大規模で精度の高い調査（卒論）

1. 参考文献・注釈

1. Takano, Y., & Osaka, E. (1999). An unsupported common view: Comparing Japan and the U.S. on individualism/collectivism. *Asian Journal of Social Psychology*, 2(3), 311–341. <https://doi.org/10.1111/1467-839X.00043>など
2. Golden Kite awards (picture book text winner) 8冊、Boston Globe - Horn book awards(picture book winner)9冊、日本絵本賞大賞10冊、講談社絵本賞10冊いずれも2008~2025年
3. Oyserman, D., Coon, H. M., & Kimmelmeier, M. (2002). Rethinking individualism and collectivism: Evaluation of theoretical assumptions and meta-analyses. *Psychological Bulletin*, 128, 3-72
4. Imada, T. (2012). Cultural narratives of individualism and collectivism: A content analysis of textbook stories in the United States and Japan. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 43(4), 576-591. doi:10.1177/0022022110383312
5. Caldecott Award (winners)9冊、Boston Globe - Horn book awards (picture book winner)9冊、日本絵本賞大賞10冊、講談社絵本賞10冊、産経児童出版文化賞美術賞いずれも2008~2025年



こちらから今回の研究の詳細をご覧ください！